



軒の深い勾配屋根で構成される木造の外観は、日本建築を想起させる。校舎の内側に沿って設けられた木製のデッキは、大変気持ちの良い場所です。読み聞かせや作業学習等、多様に使われている。

## 最近のイギリスの小学校

AAスクール助手・東ロンドン大学非常勤講師 連 健夫

(AAスクール=Architectural Association School of Architecture)

1991年に渡英され、現在、自分の学んだロンドンの大学で教鞭をとりながら、都市計画や教育施設などを研究されている連健夫氏から「ロンドン郊外にユニークな学校がある」との電話をいただき、本誌で紹介することをお願いした。多忙な中、早速、写真（撮影：筆者）をつけてご寄稿いただいた氏に感謝し、併せて読者にも機会をつくって視察されることをお奨めしたいと思う。

(文教施設協会 梶田)

1991年8月に新設されて以来、英国最優秀学校施設賞、RIBAビルディングオブザイヤー等、主だった建築賞を次々に受賞したウッドリー小学校を紹介する。

この学校のあるハンブシャーはロンドンから南西約60kmに位置し、学校建築としては、1960年代、70年代のシステムズビルディングSCOLA、80年代における多くの受賞作品を手掛けたカウンティ（役所）建築家スタンフォード・スミスを生んだ所としても有名である。このウッドリー小学校も彼のデザインチームの建築家による作品である。地域の特

性をうまく取り入れた個性的な学校建築で、現在最も注目されている学校施設の一つである。



ジュニア園校舎、中央がジュニア用昇降口。休み時間には、多くの児童が高台にある舗装プレイコートに遊びに行く。クラスルーム前には、外部での遊び・作業スペースが設けられている。軒が深くカバードスペースとなっており、雨天時でも様々な活動ができる。

この地域の児童数の推移は、ほぼ横道いであり、7クラス 245人の新設小学校として計画された。敷地は、住宅地域に近いハンブシャーが管理する森林地域の傾斜地である。ここは鉄器時代の土塁が高台にあり、東側には古代樹林と呼ばれるうっそうとした森林がある等、大変自然に恵まれた環境である。

設計者は、カウンティ建築家ネヴ・チャーチャーとサリー・ダニエルズである。設計をするに当たって、彼らは従来のく先に概略プランを構成し、それを敷地の特性に合わせて調整する」という方法ではなく、まず敷地を自らしっかり体験し、特性を十分読み取り、そこから建物をイメージしていくという方法を取った。従って、敷地に何度も通い、何時間もそこで過ごし、散策し、考え、ディスカッションを行っている。

また、これと平行し、利用者の意見を設計内容に反映させるため、建築家、教育委員会、地域の人達等の参加による設計委員会を設けている。そこで行われた



インファントのクラスルームまわりには、様々な教材・資料が置かれている。各クラスの床には招待作家によるデザインがなされている。隣接したホームベース（写真中央奥）は、他からのディスカブを受けない、落ちついた場所であり、子供達はここで先生の話聞く。



食事はホールを使って交代で行われる。1週間区切りで給食とお弁当を自由に選択することができる。ホールは、この他、体育、全校集会、集物等、様々な用途に利用される。

議論は、この魅力的な自然環境をできるだけ保存しつつ、それをいかに学習に活かすかという点についてであった。これは、現在ハンブシャーで推進している、「周囲の環境を通じて、景観について学ぶ」というテーマに一致している。



設計は、これらの会議を含めほぼ1年間にわたった。結果として、校舎は自然の地形に留意し、敷地中央部にある凹みにうまく沿わせ湾曲状に配されるという極めて有機的なデザインとなっている。このため校舎内に3つのレベルを設け、2ヵ所において高さ調整を行っている。

中央のレベルには、玄関、管理諸室、図書リソース等が配され、上部のレベルには、音楽室・ドラマ、ホール等が配されている。そして校舎両翼の下部のレベルには、ジュニア(8~11才)とインフアント(5~7才)のクラスルームや作業スペース等が設けられている。各スペースは使用目的によりグルーピングされているが、比較的オープンなプランであるため、互いに見通すことができる。

湾曲したブロックプランの外側には、音が発生する作業や水を使用する作業のためのスペースを配し、内側には、シェアードエリアと呼ばれるドライな作業を行うためのスペースを配しており、いずれも多様な学習展開が途切れなく行われるように、クラスルームに隣接している。また、外部に木製のデッキが設けられているが、これは学習や遊びの場としてのみならず、外部からのアクセスや緊急時の避難を考慮したものである。

敷地東側の低地には、ラフな芝張りのプレイフィールド、敷地南側の高台には舗装プレイコートや庭園、そして池が配されている。これらの内外部の各スペースには、徹底したレベルアクセスと段差にはスロープを用い、身障者専用の便所/シャワーを設けている等、身障者に対しても十分な配慮が見られる。



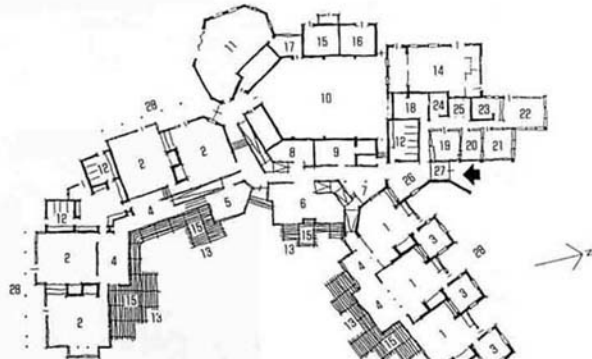
構造は意匠上、経済上の理由から、木構造を基本とし、一部にレンガ造を用いている。これは、外部と内部をできるだけ開放的に繋げるというコンセプトに沿

うものである。また、内部において、柱や梁の木製の素地をそのまま見せ、併せて天井や窓枠にも木を用いることにより、柔らかく落ち着いた空間が得られている。

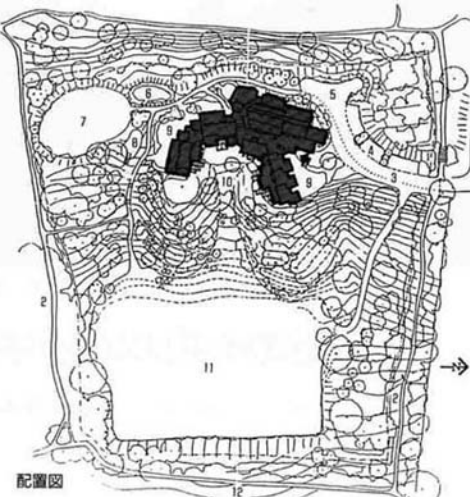
床材については、床座が行われるホームベースにはカーペット、様々な学習活動が行われるクラスルームはテラコッタ床カラータイル、ホールはフローリングというように、各スペースの使用内容に応じて使い分けている。

また、招待作家によって各クラスルームごとに床のデザインがなされており、児童のクラスへの帰属感を高めている。外壁は濃い焦茶に塗

### 平面図



1.インフアント・クラスルーム 2.ジュニア・クラスルーム 3.ホームベース  
4.シェアードエリア 5.チュートリアル 6.図書リソース 7.インフアント図書 8.料理 9.工芸 10.ホール  
11.音楽室・ドラマ 12.便所 13.デッキ 14.キッチン 15.管理倉庫 16.教員倉庫 17.体育倉庫  
18.事務倉庫 19.事務室 20.保潔室 21.校長室 22.職員休憩室 23.作業室 24.身障者便所・シャワー  
25.職員便所 26.待合室 27.中央玄関 28.遊び・作業スペース



配置図

1. 鉄路時代土庫 2. 緑の歩道 3. アプローチ 4. 駐車場 5. サービス 6. 学校園 7. 舗装プレイコート 8. 池 9. 遊び・作業スペース 10. 凹み 11. プレイフィールド 12. 古代樹林  
名称: WOODLEA PRIMARY SCHOOL  
所在地: WHITEHILL BORDON, HAMPSHIRE, UK  
設計者: HAMPSHIRE COUNTY COUNCIL  
対象児童: 5~11才。7クラス(245人)  
床面積: 1,157㎡ 敷地面積: 26,500㎡  
建設年月日: 1991年8月(工期15ヶ月)  
受賞: 1992年 Education Award for the Best School Building in UK  
1993年 RIBA Regional, National and Building of the Year Awards  
1994年 BBC Design Awards Environment and Architecture Award

装された木板の横張り、勾配屋根はスギ板葺きであり、周囲の森林に建物が溶け込むような外観となっている。

○

照明は、多くのトップライトや高窓により十分な自然光が得られているため、普段は特に必要としないが、悪天候や夜間使用時の利用のために、天井を照らす柔らかな間接照明や梁下に隠された照明器具、必要な各所にはスポットライトが設けられている。音楽室・ドラマやホールには、簡素であるが様々な雰囲気をつくりだせるようなステージ照明設備が工夫されている。

空調については多くの窓により十分な開口部が得られているため、料理や工芸等、一部の部屋を除き自然換気としている。暖房については、ガス熱源による温水ラジエーターが用いられ、一部はファンコンベクターにより循環を行っている。天井、壁や床には高性能の断熱材が用いられ、併せて窓の90%を2重ガラスとする等、省エネルギーが図られている。

○

工事中においても設計委員会のチームワークは活かされ、木の植樹や伐採、池掘り作業が多くの参加者によって行われた。敷地の中にあるベンチについても、地域の人達によって造られたものである。また、ヘンリー・スミスという地元の木彫り芸術家の制作によるワニヤリス等の彫刻が敷地の様々な所に置かれ、芸術に身近に触れられる学習環境となっている。

○

学校は地域にとって重要な施設であることは言うまでもない。子供達、教師や父兄、そして地域の人達の息の合った様々な活動は、建築後の現在においても活発に続けられている。基本方針である自然を活かした学習環境は、密度の濃い優れた設計のみならず、設計プロセスを通じて得られた、地域との親密な関係において、初めて活かされるという良い事例である。

イギリスの学校の特徴の一つに、工夫された様々な学習コーナーで学習空間が形成されていることがあげられており、この学校はそれを巧みな平面構成によっ

て、うまく建築的にサポートしていると同時に、それらが内外部にわたって、変化にとんだ魅力的な空間をつくっているのには目を見張るものがある。

また、設計者が敷地を実際に体験しながら建物を形づくっていくという設計プ



ジュニアのクラスルーム。トップライト等多くの開口部により、内部はとても明るい。机はグループ配置であるが、児童は各自の進度で学習をし、教師は机を回って指導する個別学習である。

ロセスを通して、建物自体が敷地の特性にうまく馴染んでいると同時に、他の学校に見られない独自のデザインとなっている点が注目される。個性を尊ぶ国民性と柔軟な教育をバックグラウンドとする学校建築も、また個性的なのである。



クラスルーム横には、シェードエリアと呼ばれる図画や工作、実験等の作業実習を行う場が用意されている。ここには、様々な教材・資料が児童の目に触れる所に置かれる。



敷地中央の凹みをうまく取り囲むように校舎は配されている。ここから下に降りると、プレイフィールドがある。校舎には自然光を十分取り入れるため、多くの高窓が設けられている。



学校の中心に配された図書リソースエリアは、図書や資料を利用する場としてのみならず、チュートリアル（個別指導）やグループ学習、教員と児童との話し合い等多目的に利用されている。天井や壁、机や椅子等、様々な所に用いられた木の素材がとても心地好い。



待合室に設けられた円窓からクラスルームの様子が見える。ここに置かれた椅子とテーブルは木彫り芸術家によって制作されたものである。



木彫り芸術家制作による本の形をした校名板

むらじ・たけお  
1956年東京都生まれ。多摩美術大学卒、東京理科大学大学院修了。巴組職工所建築設計部、ロンドンAAスクール大学院修了の後、現職。  
MURAJI, Takeo / Teaching Assistant of AA School in London